

つながりに気づくと、仕事はもっと面白くなる ～若手指導員の本音～

1. はじめに

今号の「若手指導員の声」では、続いて、旭川訓練センターに勤務する庭野 拓海 指導員にお話を伺いました。

【庭野 拓海 指導員のご紹介】

北陸職業能力開発大学校卒。指導員歴は3年目。電気分野を担当し、主に電気回路の基礎、シーケンス制御の基本回路、タイマー回路などの訓練を受け持つ。好きな言葉は「やらない後悔より、やって後悔」。



2. 近況と日々の工夫

「技能と技術」編集部（以下「編集部」） 現在は、どのような訓練をご担当されていますか。

庭野指導員（以下「庭野」） 主な担当は電気分野です。電気回路の基礎や、シーケンス制御の基本回路、

タイマー回路などを中心に担当しています。ほかにもいろいろありますが、主なものとしてはそのあたりです。

編集部 工業高校から大学校まで一貫して電気を学んでこられたと、伺いましたが、着任後に苦労された点がありましたか。

庭野 電気工事の分野ですね。シーケンス制御については大学校でもしっかり学んできたのですが、電気工事は少し離れていた時期もあって、着任当初は内容をかなり忘れていました。授業を担当するにはそのままでは難しいと感じて、一から学び直しました。今は何とか教えられているかな、というところですよ。

編集部 「技能と技術」誌は以前からご覧になっていましたか。

庭野 はい。施設内の回覧でよく目にしています。どんなことをやっているんだろうと気になっていましたし、生成 AI の活用について書かれた記事は印象に残っています。

編集部 実際にご自身でも AI を活用されているそうですね。

庭野 まだうまく使いこなせているとは言えませんが、Copilot を使って業務を一緒に進めることがあります。例えば、指導案を作るときにたたき台を作ってもらったり、自分の考えを整理したりする際に活用しています。また、施設の入所率について考えるときにも、一度自分の考えを Copilot に投げて、別の視点からの提案をもらうことがあります。分析が得意だと感じているので、その点で役立っています。

編集部 日常業務の中でかなり実践的に使われていますね。

3. 好きな言葉

編集部 好きな言葉として「やらない後悔より、やって後悔」を挙げていただきました。どういった思いがあるのでしょうか。

庭野 先輩指導員から聞いた言葉なのですが、自分でも本当にそうだなと思っています。頭の中で考え続けているうちに時間が過ぎてしまうよりも、まず動いてみて、その途中で改善していった方がいいと思うんです。実際に訓練をやってみると、受講者からアンケートなどで反応をもらえます。良かったところは次に生かして、改善が必要なところは次回までに直していく。そういう積み重ねが大事だと思っています。この言葉は自分の経験にも重なっています。

編集部 準備を大切にしつつ、まずやる姿勢が大事だということですね。

庭野 そうですね。やってみないと分からないことも多いので、そこは常に意識しています。

編集部 着任当初はどのように訓練を覚えていかれたのですか。

庭野 最初は訓練の雰囲気や流れがよく分からなかったもので、まずは聴講して授業の進め方を見て学びました。その後、自分なりに工夫しながら授業準備を進めていきました。最初に担当したのは座学の計算分野だったのですが、「自分がどこでつまずきやすかったか」を思い出しながら準備して、時間を測って練習しました。時間が長くなりそうなときは先輩に相談して、「ここは削ってもいいのでは」などの助言をいただきながら、1回目の授業に臨みました。

編集部 かなり丁寧に準備されたのですね。

庭野 最初だったので、とにかく必死でした。また先輩から、最初から1ユニット全部ではなく、「まず1時間分だけやってみよう」と言ってもらえたのもありがたかったです。年明け最初の授業でもあったので、そこを段階的に任せてもらえたのは大きか

ったですね。

編集部 先輩方の配慮があったわけですね。

庭野 はい。準備の面で、かなり支えていただきました。

編集部 印象に残っている先輩からの助言はありますか。

庭野 他科の先生からいただいた言葉ですが、専門用語をそのまま伝えるだけでなく、「この言葉はこういう意味なんだよ」と少し噛み砕いて説明すると、受講者が興味を持ってくれる、という助言です。確かにその通りだなと思って、今も授業では意識しています。専門用語だけだと、とっつきにくいですし、その言葉が何を指しているのかまで伝えた方が、理解しやすくなると思います。

編集部 その助言は、どのような場面で受けられたのですか。

庭野 職業能力開発総合大学校の施設実習の時、模擬授業を行った後にいただいたものです。うちの施設では、指導員だけでなく管理職の方々も含めて多くの方が見てくださっていて、いろいろな視点から意見をいただきました。本当にありがたかったと思います。

4. 支え合う職場

編集部 施設の雰囲気はいかがですか。

庭野 とても良いと思います。職員同士の関係も良く、総務課と訓練課が同じフロアにあるので、普段から行き来しながら話しやすい雰囲気があります。センター長とも距離が遠い感じではなくて、ありがたい環境です。困ったことはありますか、と聞かれても、すぐには思い浮かばないくらい周りに恵まれていると思います。

編集部 それはとても心強いですね。これから指導員を目指す人にも安心材料になりそうです。

編集部 ここ最近で、特に大変だった業務はありますか。

庭野 直近では、在職者訓練の準備が大変でした。電気工事の施工管理に関する内容を担当したのですが、参加される方々の経験や前提知識が様々だと思

い、どのレベルから説明するか、どの順番で話すか、実習をどう組み込むか、といった構成を考えるのに苦労しました。品質管理や工程管理の話も入るので、それを現場の仕事とどう結び付けて伝えるか、かなり考えました。

編集部 受講者層が幅広いからこそその難しさですね。

庭野 そうですね。離職者訓練とはまた違う難しさがありました。

5. 理想の先輩像

編集部 今年は後輩も入られたそうですね。

庭野 はい。他科ですが、職業能力開発総合大学校から入られた方がいます。自分がもう先輩の立場なんだと思うと少し不思議な感じはあります。

編集部 後輩にはどんなふうに関わっていきたいですか。

庭野 普段から気軽に相談できるような関わり方を心がけていきたいです。自分自身、入構してしばらくは大変に感じることも多かったので、無理をさせすぎないように見守りつつ、必要なときにはしっかりフォローしていければと考えています。

編集部 今後、どのような先輩になりたいですか。

庭野 忙しくてもそれを周囲に感じさせない、余裕のある先輩になりたいです。実際にそういう先輩がいて、本当にかっこいいなと思っています。忙しいはずなのに落ち着いていて、周りにも自然と気を

配っている。そういう姿に少しでも近づけたらと思っています。

編集部 理想の先輩像が身近にあるのは素敵ですね。

庭野 そうですね。そういう先輩方を見て、自分も少しずつ近づけたらと思っています。

6. つながる学び

編集部 お話をうかがっていると、「つながり」を大切にされている印象があります。

庭野 はい、自分でも「つながり」は大切にしていると思います。学生時代に、電気回路やプログラムなど別々に学んでいたことが、一つのものづくりの中で結びついた経験があり、そのときにとても面白いと感じました。点と点が線でつながるような感覚です。そうした経験があるからこそ、仕事においても、今やっていることが別の分野や業務につながったときに面白さを感じています。こうした「つながり」を意識することが、仕事を楽しむことにもつながっているのだと思います。

編集部 本日はありがとうございました。

